

ベナンの風便り

2009年11月号

みなさんお元気ですか？日本ではすでにとても寒い日が続いているのでしょうか。ベナンは今乾季でハルマッタンが始まりました。ハルマッタンとは北風に乗ってサハラ砂漠の砂が飛んでくる現象（日本で言う黄砂のようなもの）で、本格的になると砂が空を覆ってしまって太陽が隠れるため、アフリカといえど朝晩はとても冷え込みます。寒さに慣れている私たちは特に気にならないのですが、寒さに慣れていないベナンの人たちはジャンパーなどを着こみます。さて今回はベナンの民家を紹介します。まだまだベナン中を訪問したわけではありませんが、地域によっていろいろな特徴がありますよ。

ベナンの民家



ベナンの村落では右の写真のような土壁の家がほとんどです。家によっては屋根がわらぶきでなく、トタンの場合もあります。首都であるポルトノボでも、一歩わき道に入るとこのような土壁の家がたくさんあり、多くの人々が生活をしています。中はお世辞にも広いとは言えませんが、慣れているのか？うまくスペースを使って生活をしています。電気のきていない家が多く、夜はろうそくやアルコールランプのようなものを頼りに生活をしています。

ベナンの都市部で多いのがこの長屋形式の民家。左の写真は隊員宅のため網戸が張ってあったり、鉄格子がついたりして立派ですが、一般庶民の家には付いていないことが多いです。基本的に塀で囲まれていて、この中に一家族のみならず、たくさんの方が住んでいます。水の豊富な地域ではこの敷地内に井戸がついている場合も多いです。また都市部では電気を引いている家が多いです。



ベナン北部のある地方で見られる「タタソソバ（ソソバ族の家という意味）」という家です。外壁は粘土質の土と水を混ぜて作り、まわりを乾燥した牛糞にシアの実（日本でもお馴染みのシアバターの原料）とネレという実の皮を煎じたものをかけたもので固めて作るそうです。家の前にあるいくつかの盛り上がったものは先祖の霊を祭ってあるものらしいです。外敵から守るために入口はひとつしかありません（部

水上集落、もしくは季節によって沈んでしまう地域の家で、植物の茎などを使って家を作っています。すぐに壊れてしまいましたが、15年ほどもつとか。飲み水は現在は他の場所から船で運んでいる家が多いようですが、他の生活用水は家の下の水で、トイレや水浴び、洗濯もこの水を使います。こう見えても家によっては電気を引いている家もあるそうです。



族によっては入り口がなく、はしごを使って上から入る建物もあるそうです。しかし屋上には広いスペースがあり、窮屈ではありません。また屋上の隅には穀物を乾燥させるスペース（写真右）と貯蔵庫（写真左）があり穀物を保存することができます。水の少ない地域のため遠くまで水を汲みに行かなければなりません。電気を引いている家もおそらくないと思います。

ベナンには40以上の部族が生活していると言われており、部族によって特徴的な建築方式の家で生活しているようです（特に北部）。残されたベナンでの任期があとたったの4か月になってしまいましたが、時間を見つけて他の地域にも足を伸ばして、新たな発見ができればと思います。

ブログ更新中

ベナンの風：<http://benin.seesaa.net/>